

り。富樫氏の代に久保橋の間に淨専寺といふ寺ありしと云ふ。と記載す。如何なる傳説なるか追考すべし。

○泉野訓練場跡

芦中町の後町なり。訓練場は舊藩士の軍列訓練の爲めに設けられたり。蓋し舊藩には國初以來、諸士軍粧軍備の訓練といふ事なかりしかど、十三世權中納言齊泰卿の時、外國船渡來の事件ありしに依つて、嘉永五年の秋頃より地所平均に取掛り、翌六年秋までに落成す。其の地域幅百間長二百間にて、周圍に土居を築きたり。故に土居の内は幅九十間長百八十間許なりと云ふ。越中國礪波郡高瀬村八助と云ふもの、銀三十貫目の請負にて命ぜらる。といへり。或は曰く、此の地は昔池の左衛門といふ人の館跡なるよし、土人云ひ傳へたり。其の地所は泉村の地内なりしかど、土地悪しく、下免の地なるに依つて、古より柿木畠となし、木の廻りを僅に畑に開き、蒜・絲瓜など植ゑ來れりと。一説には、往古作食藏ありし跡にて、先々より三右衛門・與兵衛といへる百姓、兩人此の地に居住し、畠地になし、漸く活計を立て居たり。依つて訓練場と成りける時、兩人共訓練

場付の小遣小者に抱えられ、小屋番を勤めたりとぞ。然るに廢藩後訓練の事止みたるにより、明治七年八月金澤區長より貧民授産の爲め、御拂下げの儀を出願し、内務省へ上申し、拂下げに相成り、今茶畑とす。

○有松町

此の一町は、泉新町の以南にて、有松村の村地なるを相對請地になし、町家を建てたり。高澤忠順の年代摘要に、享保十二年九月泉村・有松村町續新家願之通家建。とありて、此の時より町家建に成りたり。然るを文政四年二月金澤町奉行の支配地と成り、初て町名をば有松町と稱す。然れどもと相對請地の郡地なりしゆゑに、地子米代銀を有松村へ納め來る處、明治十二年金澤市中郡地のヶ所を一般に悉く町地へ屬せられたり。

○木船神社前建石

此の碑石は、有松町木船社の入口に建て、大乘寺への道案内の碑なり。碑石に寶永四年林鐘日藤氏大桑光吉と彫刻す。龜尾記に云ふ。大乘寺造營ありし元祿の頃は、野々市より此の道へ入り、是より圓光寺村寺地村の地内を経て、

鶴來街道を十字に東へ入り、夫れより泉野新村の地内を通り行して、大乘寺へ詣りたりしかど、城下より野田道通り參詣する事と成りしに依つて、いつしか雲衲の旅僧も長坂道を往來する事となり、有松の本道は捨てられたりといへり。今は碑石も廢す。

○有松木船神社

此の神社は、有松町等七十餘戸の産土神にて、有松の村腰に鎮座す。有松村は古き村落にて、此の神社も甚だ舊社なりしと云ひ傳ふれど、従前は犀川河上の山伏實高寺の兼勤する社にて、社傳の舊記來歴も詳かならずといへり。明治五年十一月村社に列せられたり。

○有松村

此の村落は、有松町の裏にあり。石川訪古遊記に、有松村接金澤府泉街。民家三十八戸。とありて、小村なりといへども、明德二年の古文書に、有松村地頭職の事を載せられたるは、甚だ古き村落なる事知られたり。また此の村はもと泉村の枝村にて、往昔は泉とも有松とも呼びたりしにやといへり。

○有松村地頭職

汲古北徴錄に左の古文書を載せたり。  
加賀國有松村地頭職事  
早任去年十二月廿四日被下文可被沙汰付。小早川民部法眼實忠之狀。仍仰執達如件。

明德二年五月九日

右京大夫判

治部大輔殿

按ずるに、右京大夫は細川右京大夫なるべし。治部大輔は誰ならんか。尙追考すべし。

○有松宮内少輔教景館跡

石川訪古遊記に云ふ。有松里之東南有富樫有松宮内少輔教景宅址。富樫家國會孫曰高家。稱泉四郎。蓋始此村焉。中村政醇家藏足利將軍茶器名品圖。即元龜二年富樫有松宮内少輔教景故物也。龜尾記に云ふ。有松村に有松次郎・三郎などゝて、富樫氏類族の館跡とて、今田の字に遺れり。又其の邊に的場古屋敷の名あり。地頭の館に付きての遺名なるべしといへり。平次按ずるに、山城國下賀茂社藏の注進雜記に載せたる延徳三年八月の古文書に、